

令和4年度 第2回多治見市文化財審議会議事録

開催日時 令和4年12月14日(水) 午後1時より

開催場所 小泉交流センター 大会議室

出席委員 小木曾郁夫 深谷滋浩 長谷川幸生 立花昭 加藤桂子 黒田正直 春日美海

欠席委員 藤澤良祐 平林史孝 福島金治

事務局出席者	多治見市教育委員会	教育長	渡辺哲郎
	文化財保護センター	所長	杉村哲也
	〃	主査	矢部由美子
	〃	総括主査	松田直美
	〃	主査(学芸員)	岩井美和
	〃	会計年度任用職員(学芸員)	篠昌志

(進行内容)

1. 開会のことば
 2. 教育長あいさつ
 3. 会長あいさつ
 4. 議事録署名者の決定
 5. 議事
- (1) 市内製陶所視察

(2) 審議事項

- ①市内製陶所について【非公開】
- ②市内陶芸家について【非公開】

6. 報告事項

ア 指定文化財について

- 1 長福寺文書「美濃国池田御厨某寺奉加帳」修理について
- 2 小木棒の手記録作成事業について
- 3 妙土窯跡の木の伐採、フェンス・土留め修理について
- 4 永保寺五峰庵周辺の木の伐採、柵の取替について
- 5 カワニナ調査について
- 6 甘原のカキの保護対応について

イ 埋蔵文化財について

- 1 試掘状況、発掘状況、整理作業状況、今後の予定

ウ 普及啓発について

7. その他

笠原で新しく見つかった山城について
次回開催の日程について

2、教育長あいさつ

3、会長あいさつ

会長：カワニナ調査に参加したが、堰堤にカワニナがびっしりついており驚いた。小さなカワニナが生まれるとホテルの子どもの餌になる。こうして「北小木のホテル」は維持されていると感じる。最近アサギマダラという蝶が話題になっている。フジバカマという草の蜜を吸いにアサギマダラが来るということで多治見市内の至る所でフジバカマを植えている。甘原に行って見てきたが、下見に行ったときは多く飛んでいたが、三日後に行ったら一匹もいなかった。ついでに甘原のカキを見に行ってきたが、今年のカキがなかったと地元の人が言っていた。今日は市内製陶所の指定に関わるのが中心になると思うが、委員の意見や情報をいただけるとありがたい。

4、議事録署名者の決定

(議事録の署名者は、事務局から長谷川委員と立花委員を指名、承認。)

5、議事

(1) 市内製陶所視察

(工房及び展示室を見学)

(2) 審議事項

①市内製陶所について【非公開】

②市内陶芸家について【非公開】

6. 報告事項

ア 指定文化財について

1 長福寺文書「美濃国池田御厨某寺奉加帳」修理について

事務局：昨年度の1月に多治見市有形文化財に指定された長福寺文書「美濃国池田御厨某寺奉加帳」について、今年度から来年度にかけて修理を行っている。修理状況を今年2回確認しに行ったので報告する。修理は京都国立博物館内にある修理業者に依頼している。今年度は解体、裏紙をはずし、傷んでいる所の補修を行っている。来年度は欠失分の補修と継ぎの部分の糊差し及び継ぎ直しを行う予定。確認して分かったことも報告する。継いであった紙を外して一枚一枚確認した。裏紙は全て外してある。裏紙は後世に貼ったものであるため、本紙と裏紙の紙質が異なり、傷む可能性があるということで裏紙

は外したままで本紙だけの状態にして返ってくる。後世に破れたところを紙を貼って補修してある箇所があったが、その紙をはがして補修した。また本紙のどこかの部分の破片が異なる箇所に挟まっていたところがあった。その破片を剥がして文書本体と一緒に保管することになると思う。後世の継は文字が切れて継いであるところもあったので、紙の重なりも剥がし、継いであったところが分かるように3mm あけて補修する。文書は軸状になっているが軸が3本の木を合わせて一本にしている形であったことが分かった。この3本の軸木は保管して、今新しく仮の芯を木にするか紙にするかを話し合っている。修理業者は、木だと硬いため、丸めて保管した時に圧がかかると本紙が傷む、紙がよいとのことだ。おそらく紙になるだろうと思う。来年6月末までの予定で修理を行う予定。

2 小木棒の手記録作成事業について

事務局：今年度の補助事業で行っている中のひとつで、岐阜県重要無形民俗文化財の「小木棒の手」の記録作成をしている。市内の業者に依頼し、練習風景から当日の様子を撮影してもらい、一つのDVDにまとめて、岐阜県の各市町村図書館等に配布する予定である。今までは女子の参加は認められていなかったが、今年初めて女子が参加した。諏訪町には子どもが2人しかいないとのことで、諏訪町の関係者の子なら女子も認められ、参加することになった。今後後継者育成の件で考えていかななくてはならない。棒の手をアピールして知ってもらい、募集をするという形でやっていければと思っている。

3 妙土窯跡の木の伐採、フェンス・土留め修理について

事務局：岐阜県史跡である妙土窯跡について、県の補助事業として、木の伐採、フェンス・土留めの修理を行った。木の枯れた部分を伐採し、経年劣化したフェンスを取り換えた。また土留めも一部前傾していたため取り換えた。

4 永保寺五峰庵周辺の木の伐採、柵の取替について

事務局：五峰庵周囲に木が多く茂っているため日が当たらず、茅葺屋根が劣化しているため、一部木を伐採する。柵も年数が経って劣化していたため取り換えた。市の名勝の範囲のギリギリであったため、報告した。

5 カワナ調査について

事務局：令和4年10月23日にカワナ調査を行った。令和2、3年は新型コロナウイルス感染防止のため職員のみで行ったが、今回はボランティアを募集し、文化財審議会委員にも参加いただき、13人で調査を行った。調査方法は例年通りである。過去11番目に多いカワナを確認した。また原因は分からないが、例年30、40匹くらいだったのが令和3、4では200匹も観測している箇所があった。今年のホタルは大量発生であったが、その裏付けとして去年多くのカワナが見つかっている。今年のカワナ数からすると今年以上に来年ホタルが大量発生することはないと予測している。

6 甘原のカキの保護対応について

事務局：甘原のカキの所有者から、イノシシ被害があると連絡があった。所有者と協議し、フェンスを作ることにした。防御柵1.2mを予定している。根がむき出しになっているところもあるため、藁を敷き、保護する予定。

イ 埋蔵文化財について

1 試掘状況、発掘状況、整理作業状況、今後の予定

事務局：現在発掘物の整理作業や報告書作成作業を行っている。試掘調査が12月までに5か所行っている。今後の予定を報告する。北小木小松針1号窯発掘調査報告書が令和5年1月に完成予定。大針6・8・9・11号窯発掘調査報告書の作成事務を継続中。大沢10・11・14号窯、北小木大谷洞25号窯発掘調査整理作業継続中。今後の発掘調査は、大沢1・2号窯が令和5年4月以降、七ツ塚遺跡が令和5年7月以降の予定。

ウ 普及啓発について

(1) 文化財防火デー

事務局：文化財防火デーに伴う文化財の立ち入り点検を、令和5年1月25日、27日、30日に行う予定。永保寺防火訓練も1月29日（日）に行う。

(2) 企画展について

事務局：企画展について、令和5年1月16日（月）～6月23日（金）の期間で開催する。令和2年に開催した「やきもの入門—多治見の古代中世編—」に続くやきもの入門第2弾ということで初心者にもわかりやすい展示にする。特別開館日として、3月11日（土）と6月4日（日）の2日を設ける。

(3) 他館との共同展示について

事務局：多治見市陶磁器意匠研究所との連携企画として「文化財保護センター×陶磁器意匠研究所連携企画 多治見のやきもの vol.5 市之倉」を開催する。期間は令和5年1月27日（金）～3月5日（日）の9時～17時で、会期中は無休。陶磁器意匠研究所と行った3Dスキュンの研究会の成果として、3Dデータを見ることのできるQRコードの掲示も行う。

(4) 意匠研との3Dスキュン研究について

事務局：現在陶磁器意匠研究所と文化財保護センターで、文化財保護センター所蔵資料の3Dスキュン研究を行っている。3Dデータの公開の場としては、「(3) 他館との共同展示について」の市之倉展でQRコードを掲示する予定。すべての資料が3Dスキュンできたわけではなく、磁器のような白くてツヤのある資料は読み取れなかった。磁器の中では、西浦焼赤絵金彩吹き徳利だけはなんとかスキュンできた。今後のスキュン予定は市之倉展で掲載する関係で、市内無形文化財技術保持者の作品の3点である。

(5) 文化財講座について

事務局：現在開催中の企画展「多治見の鉄道史」に関連して、11月12日（土）にまちあるき講座「鉄道まちあるき」を開催した。講師はバロー文化ホールの館長に依頼し、参加人数25人で多治見市役所駅北庁舎から陶彩の径（旧市之倉口駅）までの旧笠原鉄道沿線を解説付きで巡った。

(6) 『多治見の文化財』の改訂について

事務局：『多治見の文化財』の改訂を来年度行う予定である。それに伴い文化財審議委員に現行の『多治見の文化財』の記事に加筆・修正を依頼したい。内容に誤りがないか、新たな情報、追加点や調査すべき点をご教示いただきたい。

(7) 学校との連携について

事務局：学校展示について、学校の空き教室を活用した展示を今年度 2 校、来年度 2 校という形で進めている。今年度は南姫小学校と脇之島小学校で行い、8 月中に完成した。農業に関すること、昔の暮らしに関すること、やきものに関することを展示し、体験できることを重視して展示した。下駄や黒電話などの体験が可能。来年度は市之倉小学校と養正小学校で予定している。こちらも 8 月中に完成させる予定である。

(8) 美濃焼ミュージアムの倉庫資料について

事務局：美濃焼ミュージアムの本館裏側に倉庫が 3 棟あり、その中に陶磁器陳列館の時代からの陶片が多数あった。倉庫が劣化しているということで、中身を確認したいという相談を受けた。文化財保護センターに移動すべきものがあるなら移動しようという考えもあり、確認したところ、サンテナ箱で 200 箱以上あった。陶磁器陳列館時代に美濃焼研究家が収集したものが中心で、全国のやきものから美濃のものも多くあった。資料は相当数あり、窯道具も多くあった。比較的産地が分かるものが多くあり、まだ確認していないが、収集に関する美濃焼研究家の紙の資料もあるそうだ。美濃焼ミュージアムに 10 箱ほど保管されているとのこと。来年度倉庫を建て替える予定で、一括資料として新しい倉庫に保管しておいてもらうようお願いしている。

7、その他

笠原で新しく見つかった山城について

事務局：笠原で新しく山城らしき地形の場所が見つかった。昨年、一般市民の方から赤色立体地図で確認したところ、笠原町地内に山城らしき地形があるという報告を受けた。場所は笠原町の潮見の森の中である。富士区の南側の尾根を上がった標高約 400m の尾根の先端にある。竪堀、横堀、土橋、曲輪の縄張りらしきものがあり、土塁も少し確認できるような状態であった。発見者である郷土史家 2 人の資料を添付した。委員からの説明をお願いしたい。

委員：地元の方と以前から笠原を調べていた方と一緒に見に行った。潮見の森から山道で 10 分～15 分ほどである。ただし見通しが悪いところである。一番驚いた点は山城の中腹の手前に大きな堀切があったことだ。人工的に手が加えられていることが窺える。ただし、城主などの情報は文献史料に見えないため不明である。地元のお年寄りからの話であるが、親世代が「城山」と言っていたとのことだ。全く伝承がないわけではない。今後、文化財審議会でも現地に行って確認しなくてはいけない。今後の課題である。

委員：何か質問はあるか。今山城はブームである。色んな人が宣伝すると多くの人に来るようになりそうだ。

事務局：市民からの電話での問い合わせも多く、もっと調査してほしいという声もある。どういう風に進めたらよいか。

委員：私の方にも問い合わせがあるが、土岐市では似たような「細野城」というものがある。小牧長久手の戦いか関ヶ原の戦いの時に戦略上つくられたものと考えられる。まず時代を特定しなくてはならないとすると、発掘調査したり陶片が落ちてないか確認したりしないと、文献では何も残っていない。

事務局：まずは周囲を歩き回って探してみるとよいか。少し見た感じでは何もなかった。

委員：なかなか見つかるものではない。

委員：多治見市の詳細遺跡地図上ではどうなっているか。

事務局：載っていない。

委員：岐阜県の林業の地図に山城がプロットされている。それを利用している。それにはまだ笠原の城は出ていないが、それでみると地形が立体的に見えるため間違いはない。

事務局：まずは時代の特定か。

委員：分布調査として踏査を行って地図上に落とすことが必要だと思う。

委員：崩れた箇所があつて陶片等を探したが見つからなかった。

委員：長期に人が住んだところでないと陶片等を見つけるのは難しいと思う。

事務局：まずは踏査をして遺物を探してみることにする。

委員：専門の人に一緒に行ってもらったほうがよい。多治見市陶磁器意匠研究所職員がよいと思う。

次回開催の日程について

事務局：年度内にもう一度開く予定である。来年早々に日程調整を行う。

会長：以上で本日の審議会を終了する。

午後 4 時 35 分 閉会

議事録作成者

文化財保護センター 篠 昌志